

# 徒然草

兼好法師

## ある人、弓射ることを習ふに

ある人、弓射ることを習ふに、<sup>1</sup>諸矢もろやをたばさみて的に向かふ。師のいはく、「初心の人、二つの矢を持つことなけれ。のちの矢を頼みて、初めの矢になほざりの心あり。毎度ただ得失なく、この一矢ひとやに定むべしと思へ。」と言ふ。

<sup>1</sup>諸矢      的に向かう時に作法として持つ、一本一組の矢。

<sup>2</sup>得失      成功と失敗。ここでは当たるか当たらないかという迷いの心。

<sup>3</sup>懈怠の心      懈け心。

自ら知らずといへども、師これを知る。この戒め、万事にわたるべし。

道を学する人、夕べには朝あしたあらんことを思ひ、朝には夕べあらんことを思ひて、重ねてねんごろに修せんことを期す。<sup>4</sup>いはんや一刹那しゆのうちににおいて、懈怠の心あることを知らんや。なんぞ、ただ今の一念において、ただちにすることのはなはだ難き。

(第九二段)

<sup>4</sup>道を学する人      仏道を修行する人。

<sup>5</sup>一刹那      ほんの一瞬という意味の仏教語。後出の「一念」も同じ。

